

令和4年度足立区地域包括ケアシステム推進会議
第1回医療・介護連携推進部会

日 時 令和5年2月28日(水)
午後2時半～4時
実施方法 オンライン開催
議 長 山 中 部 会 長

次 第

開会挨拶

1 報告事項

- (1) 在宅療養支援窓口の実績報告について
- (2) 「足立区医療・介護情報提供システム」の利用状況について
- (3) 医療・介護の連携に関する研修について
 - ア 令和4年度多職種連携研修会
 - イ 令和4年度医療・介護スキルアップ研修
- (4) その他

2 検討事項

多職種連携とメディカルケアステーションの活用について

3 事務連絡

令和 4 年度 地域包括ケアシステム推進会議部会について（諮問案）

部会名	医療・介護連携推進部会	介護予防・日常生活支援総合事業推進部会	認知症ケア推進部会	高齢者の住まいの事業推進部会	地域包括支援センター運営協議部会
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ○多職種連携研修を平成27年度から開催してきたが、令和2年度及び3年度はコロナ禍のため開催できなかった。 ○ICTを活用した医療・介護関係者の情報連携促進のために、メディカルケアステーション（MCS）の運用ルールなどを定め、関係団体等にMCSの活用を周知してきた。 ○令和6年度完成予定の（仮称）江北健康づくりセンター（令和4年度着工）内に、（仮称）医療・介護情報・連携センターの開設を予定している。 ○在宅療養について、令和3年度に新たに区民向けのリーフレットを作成し周知を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○令和3年度、上半期は緊急事態宣言により、ほぼ全ての介護予防事業を中止した。長引く外出自粛による体力低下を防ぐため、9月より緊急事態宣言下でも事業を再開し年末まで実施したが、オミクロン株の感染拡大により、1月から3月まで再度一部の事業を中止した。 ○高齢者の保健事業と介護予防の一体的事業に向けて、庁内関係所管と協議し実施内容の検討を進めてきた。 ○75歳以上の後期高齢者で体重減少（6か月に2～3kg）がある場合、BMIが18.5未満の割合がどの区分よりも高く、低栄養のリスクが高い方が多いと推測される。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国が閣議決定した認知症施策推進大綱では、共生と予防を柱として掲げている。 ○共生に向け、認知症の方本人の意思をより反映した地域での取組みを推進している。 ○認知症の理解を促進するため、認知症サポーター養成講座を実施している。 ○予防と共生の普及啓発のため、9月の認知症月間に、身近な場所、商業施設での取組みを実施している。 ○介護予防チェックリストにより、早期に医療・介護に結び付くようセンター職員が訪問支援を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○足立区の「地域包括ケアシステムビジョン」では、構成要素の3つのうちの1つとして「住まい」を掲げている。 ○令和2年12月、高齢者等の住宅確保の課題について検討するため「居住支援協議会」を設置した。 ○令和3年4月、区、不動産団体2協会及び家賃債務保証会社3社の6者で「居住支援の連携協定」を締結し「あだちお部屋さがしサポート事業」を開始した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○部会の役割 地域包括支援センターが実施する業務の評価を行い、センターの適切、公正かつ中立な運営の確保を目指す役割が求められている。 ○委託業務評価の方法 部会委員の中から、評価委員を選定し、各センターが作成した「事業計画書兼報告書」及び他資料を参考にしながら、各センターにヒアリングを実施し実態確認を行っている。
課題と検討事項	<ul style="list-style-type: none"> ○（仮称）医療・介護情報・連携センターの具体的な役割や機能の検討が必要。 ○令和4年度は、多職種連携研修及びスキルアップ研修を再開予定。どのような研修内容・方法が多職種連携にとって効果的か検討が必要。 ○梅田モデル事業の全区展開に伴い、MCSの活用をさらに推進するための検討。 ○在宅療養についての、区民への普及啓発のさらなる促進方法の検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ○集合型の重要性はあるが、外出自粛や体力低下で集合参加できない高齢者に対する介護予防事業の機会を創出するため、オンラインの活用を検討する。 ○低栄養防止による要介護への進行を防止するため、低栄養リスクの高い高齢者への個別支援、通いの場における高齢者への集団支援を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今後、高齢者の増加とともに増えていく認知症の方へ、発病する前からの予防の取組み、自らが早期に気づく仕組みづくりの構築。 ○認知症の方を地域で支えるための、人材やサービス、寄添うための制度の構築。 ○「地域で支える」ということを区民に普及・啓発するために、どのような方法が有効か検討が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者の住まいに関する課題について、居住支援協議会と合同で検討していくことを予定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○次に掲げる事項を所掌し、協議・報告する。 <ol style="list-style-type: none"> 1 地域包括支援センターの設置等に関すること。 2 地域包括支援センターの行う業務の方針に関すること。 3 地域包括支援センターの運営に関すること。 4 地域包括支援センターの職員の確保に関すること。 5 その他、地域包括ケアに関すること。
	【諮問1】 * メディカルケアステーションの活用促進について	【諮問2】 * オンラインを活用した介護予防について	【諮問3】 * （仮称）認知症検診の開始について	※居住支援協議会の動向を踏まえ対応を検討	【諮問4】 * 地域包括支援センターの委託業務評価の実施について（令和4年度）

在宅療養支援窓口の実績報告（令和4年4月1日～12月31日）

「足立区在宅療養支援窓口」は、高齢者が住み慣れた地域で療養しながら安心して生活できるよう、地域の医療・介護関係者からの相談に応じ、連携の調整や情報提供などの支援を行っている。

なお、令和2年度から新型コロナウイルス感染症に関する相談にも対応している。

1 相談内容

(1) 相談内容別件数（1件の相談で複数該当あり）

順位	相談内容	件数（件）	割合（%）
1	保健医療福祉制度・サービスに関する事	72	32.1
2	利用者の入院先医療機関に関する事	33	14.7
3	在宅療養に関する事	27	12.1
4	利用者の通院先医療機関に関する事	25	11.2
5	利用者の入所先介護施設に関する事	15	6.7
6	退院後の利用者の処遇に関する事	12	5.4
7	利用者の転院先医療機関に関する事	9	4.0
8	ケアマネジメントに関する事	6	2.7
9	利用者の治療・疾患に関する事	4	1.8
10	支援困難な認知症の利用者に関する事	3	1.3
11	利用者の看取りに関する事	1	0.4
	その他	17	7.6
	合計	224	100

(2) 主な相談事例

<1位>保健医療福祉制度・サービスに関する事

- ・介護者が新型コロナウイルス感染症になった在宅要介護高齢者の相談

<2位>利用者の入院先医療機関に関する事

- ・透析の必要な方の長期入院、入所先の相談
- ・救急搬送されたが入院の必要なしとの判断で自宅に戻ったが、独居で動けない状態のため入院できるところを紹介してほしい

< 3位 > 在宅療養に関すること

- ・皮膚科、耳鼻咽喉科などの専門医のいる訪問診療の紹介
- ・点滴管理、輸血が必要、人工呼吸器管理など医療依存度が高い方への訪問診療、訪問看護ステーションの紹介

令和3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症関連の相談が多くあった。その他、透析患者の長期療養先（施設や病院）の相談や精神疾患と内科疾患など複数疾患がある場合の入院先の相談も増えている。

2 相談者別件数

順位	相談者	件数 (件)	割合 (%)
1	居宅介護支援事業所	104	47.5
2	地域包括支援センター	51	23.3
3	本人・家族	21	9.6
4	病院MSW	15	6.8
5	福祉事務所	6	2.7
5	介護事業所	6	2.7
5	病院看護師	6	2.7
6	訪問看護ステーション	1	0.5
	その他	9	4.1
	合計	219	100

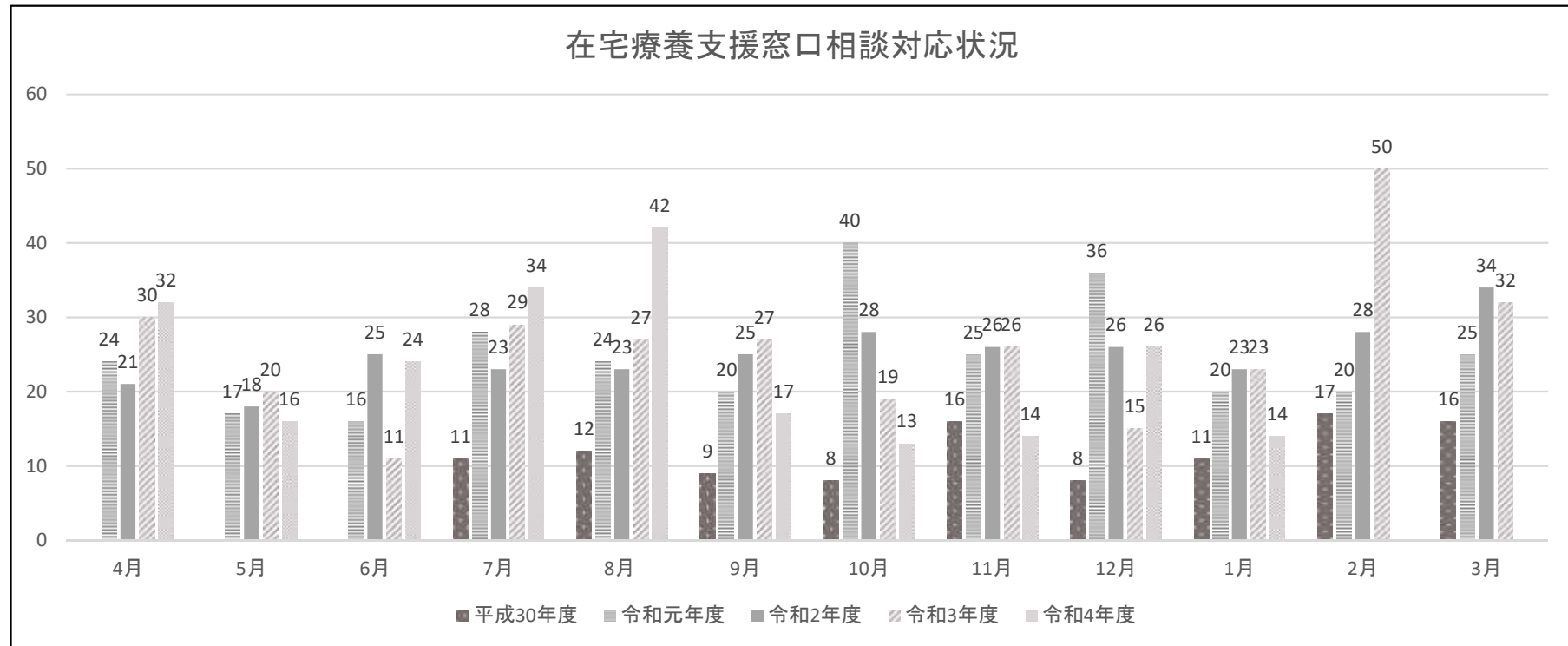
3 在宅療養支援窓口の周知活動

窓口通信「つむぎ」を発行し、区内事業者・区外医療機関等に定期的に情報提供するとともに、介護事業所（令和4年度は訪問看護ステーション）を直接訪問し、窓口の紹介を行った。

送付先	つむぎ1号	つむぎ2号	つむぎ3号	つむぎ4号
足立区内医療機関	56	158	157	/
足立区外医療機関（区民通院が多い）	141	140	140	/
新規開設居宅介護支援事業所	12	2	0	/
発行時期	R4. 1	R4. 5	R4. 11	R5. 3予定

在宅療養支援窓口相談対応状況

- 1 開設：平成30年7月
- 2 体制（令和4年度）
在宅療養支援コーディネーター 3名（介護支援専門員）
- 3 相談件数（平成30年7月～令和4年12月）



年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成30年度				11	12	9	8	16	8	11	17	16	108
令和元年度	24	17	16	28	24	20	40	25	36	20	20	25	295
令和2年度	21	18	25	23	23	25	28	26	26	23	28	34	300
令和3年度	30	20	11	29	27	27	19	26	15	23	50	32	309
令和4年度	32	16	24	34	42	17	13	14	26	14			232

足立区医療・介護情報提供システムの利用状況について

1 アクセス状況（HPのトップ画面が閲覧された回数）

【分析】令和4年度は閲覧数が例年よりも少ない。理由として、新型コロナウイルスの感染拡大により介護サービスの利用が控えられたことが考えられる。

【対策】研修や新規作成する窓口通信で医療・介護関係者に周知する。システムの特徴である詳細な医療機関情報やその他関連情報の掲載をPRする。

平成30年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
医療版アクセス数	504	382	224	334	297	255	372	220	243	297	298	391	3,817	318
介護版アクセス数	1,652	1,295	918	1,089	1,033	852	827	533	727	785	797	986	11,494	958
合計アクセス数	2,156	1,677	1,142	1,423	1,330	1,107	1,199	753	970	1,082	1,095	1,377	15,311	1,276

令和元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
医療版アクセス数	410	311	222	265	299	215	231	123	293	258	217	224	3,068	256
介護版アクセス数	1,179	983	678	798	705	659	795	1,254	1,462	1,360	1,101	1,070	12,044	1,004
合計アクセス数	1,589	1,294	900	1,063	1,004	874	1,026	1,377	1,755	1,618	1,318	1,294	15,112	1,259

令和2年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
医療版アクセス数	217	208	798	334	223	200	201	161	233	188	161	151	3,075	342
介護版アクセス数	1,214	1,011	2,857	1,572	994	1,055	1,166	1,071	910	824	670	624	13,968	1,552
合計アクセス数	1,431	1,219	3,655	1,906	1,217	1,255	1,367	1,232	1,143	1,012	831	775	17,043	1,894

令和3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
医療版アクセス数	138	181	202	157	174	143	210	259	180	243	241	194	2,322	258
介護版アクセス数	610	735	634	503	519	464	678	651	595	612	524	614	7,139	793
合計アクセス数	748	916	836	660	693	607	888	910	775	855	765	808	9,461	1,051

令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
医療版アクセス数	202	145	170	153	258								928	103
介護版アクセス数	519	592	515	465	652								2,743	305
合計アクセス数	721	737	685	618	910	1,004	1,268	1,128	820				7,891	877

※令和4年9月以降はシステムリニューアルのため合計アクセス数のみ記載

2 掲載医療機関・介護事業所数（ユーザー登録数）

【分析】事業開始以降、登録数については徐々に増加している。

【対策】医療・介護関係者向けの研修や会議、イベントで周知活動を行い登録数増を図っていたが、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響で周知活動が大きく制限されている。新規作成する窓口通信でシステムの周知と登録を呼びかける。

種別	平成31年4月1日	令和2年4月1日	令和3年4月1日	令和4年4月1日	令和5年2月1日	区内事業所数※1 (参考値)	登録率※2 (参考値)
介護サービス	648	699	752	804	832	1,324	62.8
病院・診療所	361	390	406	415	409	456	89.7
歯科診療所	295	317	332	334	330	369	89.4
薬局	283	288	298	304	300	405	74.1
柔道整復	223	231	240	238	228	296	77.0
合計	1,810	1,925	2,028	2,095	2,099	2,850	73.6

※1 区内事業所数は令和4年10月時点の確認数（システム委託業者調べ）。同一法人が複数の事業を展開している場合は個別にカウントされている。

※2 令和4年10月時点の事業所数に対する令和5年2月1日時点の登録率。

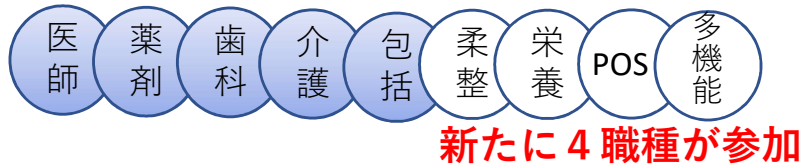
多職種連携研修 経緯と今後の方針

■平成30年度まで

主に区と足立区医師会が中心となって区全体を対象に研修を開催

■令和元年度

ブロックで課題解決できる連携体制作り
推進のため**ブロックごとの開催方式に変更**



見えてきた連携推進のための3つのキーワード

- ① 他職種の役割について理解不足なこと
- ② 患者・利用者情報の連携不足に関すること
- ③ 地域資源の共有不足に関すること

※研修テーマ「現場における他職種間の連携の困りごと」

■令和3年度～

企画運営から多職種が参画する研修形態に移行 (令和2年度はコロナ禍のため未実施)

【1】年間計画・テーマ策定

多職種連携研修部会（各職種代表と区で構成）で策定

【2】ブロック研修の企画検討

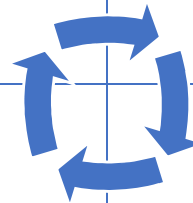
研修テーマに基づき各ブロックの世話人会で研修企画の検討

【4】振り返り・翌年度計画の検討

各世話人会[※]で振り返りを行い、多職種連携研修部会にフィードバック

【3】ブロック研修（令和4年度～）

世話人と区が連携し研修を運営



※世話人会：実質的な研修の運営主体。各職種からブロックごとに推薦された世話人と区で構成。

今回この3つの
キーワードを
検討に含める

高齢者の在宅療養を支えるため在宅医療、介護にかかわる多職種が参加し、
顔が見え相談できる関係を作り**ブロックで課題解決できる連携体制づくり**の推進をめざす

令和4年度多職種連携研修会 実施状況

資料4-2

項目		千住	中部	東部	西部	北部
研修日時・場所		10月5日（水） 19:00～21:00 梅田地域学習センター	10月12日（水） 19:00～21:00 ギャラクシティ	10月26日（水） 19:00～21:00 勤労福祉会館	11月16日（水） 19:00～21:00 ギャラクシティ	11月30日（水） 19:00～21:00 竹の塚地域学習センター
研修内容	第1部	ミニレクチャー 長寿社会を女性視点で解説 「百寿者、介護、女性疾患」	職種紹介プレゼンテーション 柔道整復師／リハビリテ ーション職／栄養士／ 小規模多機能サービス	職種紹介プレゼンテーション 柔道整復師／リハビリテ ーション職／栄養士／ 小規模多機能サービス	職種紹介プレゼンテーション 柔道整復師／リハビリテ ーション職／栄養士／ 小規模多機能サービス	ミニ講座 「多職種連携による高齢者の フレイル予防」
	第2部	グループワーク 多職種連携の際「上手くいっ たこと」や「失敗したこ と」、「多職種連携研修でこ れからやってみたいこと」に ついて話し合い、共有する。	グループワーク 職種別プレゼンテーションの 感想、連携について難しいと 感じていること、うまくいっ た事例などを共有する。	グループワーク 職種別プレゼンテーションの 感想、連携について難しいと 感じていること、うまくいっ た事例などを共有する。	グループワーク 職種別プレゼンテーションの 感想、連携について難しいと 感じていること、うまくいっ た事例などを共有する。	グループワーク 多職種連携の際「上手くいっ たこと」や「失敗したこ と」、「多職種連携研修でこ れからやってみたいこと」に ついて話し合い、共有する。
今後の研修で取り上げ て欲しいテーマ1位		事例検討	連携について	多職種を知る	多職種を知る	事例検討／連携について／ 多職種を知るが同数
参加人数	医師会	15	8	5	13	5
	歯科医師会	2	0	1	1	0
	薬剤師会	9	21	3	13	12
	介護サービス事業者 連絡協議会	8	8	10	16	11
	柔道整復師会	4	4	3	1	4
	POSネットワーク	5	3	1	1	5
	栄養士会	2	2	3	3	4
	多機能サービス連絡会	0	3	1	2	2
	地域包括支援センター	8	13	9	12	7
	合計	53	62	36	62	50

令和4年度 医療・介護スキルアップ研修実施報告

1 実施概要

研修名	令和4年度 医療・介護スキルアップ研修 ～基礎からわかる新型コロナウイルス感染症～		
目的	症例から現場で役立つ知識を習得し実践力を向上させ、今後の連携を円滑に推進する。		
受講者	以下団体に属する区内医療・介護関係者 ※WEB 開催により実際の傍聴有無が確認できないためアンケート回答者数		
		団体名	参加者数
	1	足立区医師会	3
	2	足立区歯科医師会	0
	3	足立区薬剤師会	19
	4	足立区介護サービス事業者連絡協議会	73
	5	東京都柔道整復師会足立支部	8
	6	あだち POS ネットワーク	1
	7	東京都栄養士会足立支部	3
	8	足立区多機能サービス連絡会	1
	9	地域包括支援センター	26
		合計	134
日程	令和4年9月14日(水)午後7時～午後9時		
開催方法	オンライン開催(Webex) ※区役所の特別会議室に事務局及び講師用のWEB環境を設置		
講義内容	講義1:阿部メディカルクリニック 院長 阿部 聡 氏 総論(新型コロナウイルスの歴史、現状、対策、未来予測、医療政策など) 講義2:博慈会感染症制御室 室長 田島 剛 氏 各論(ウイルス、ワクチンの基礎、患者(利用者)の接し方、マスクを含めた感染対策など)		
研修動画	研修内容を撮影し、区内医療機関、介護事業所等に属する医療・介護関係者向けに動画配信した。		
配信	(1)配信期間 令和4年10月20日(木)から5年1月6日(金) (2)配信方法 Youtube で配信(限定公開) (3)視聴回数 160回		

2 研修当日の流れ

時刻	時間	概要
18:30	30	●研修受付開始
19:00	2	●オリエンテーション 地域包括ケア推進課 早川 晋介
19:02	3	●開会挨拶 地域包括ケア推進課長 柳瀬 晴夫
19:05	5	●研修の流れ説明 <司会> ハートぽっぽ指定居宅介護支援事業所 鶴沢 隆氏
19:10	45	●講義①総論 「新型コロナウイルスの歴史、現状、対策、未来予測、医療政策など」 阿部メディカルクリニック 院長 阿部 聡氏
19:55	45	●講義②各論 「ウイルス、ワクチンの基礎、患者（利用者）の接し方、感染対策など」 博慈会感染症制御室 室長 田島 剛氏
20:40	5	●講評 足立区社会福祉協議会 地域福祉部長 和田 忍氏
20:50	5	●閉会挨拶 爽寿堂クリニック 院長 橋爪 敏彦氏
20:55	5	●事務連絡 地域包括ケア推進課 早川 晋介

足立区内におけるメディカルケアステーションの登録・利用状況

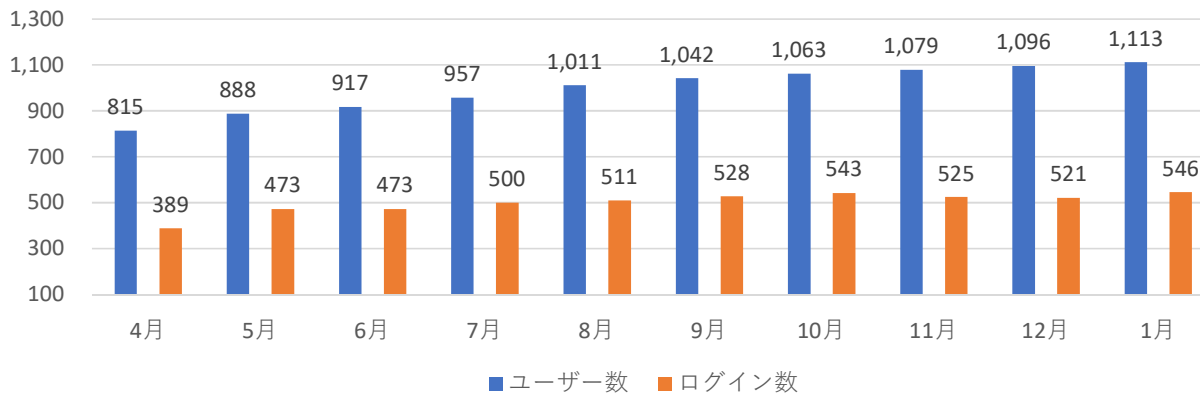
事業種別MCS登録状況

登録状況（施設種別内訳）	母数（※）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	各施設登録率
医療	1,573	233	239	252	268	281	288	291	297	304	307			20%
介護	672	106	117	117	123	126	129	131	133	135	136			20%
地域包括支援センター	25	3	3	3	7	10	11	13	14	14	14			56%
施設	125	16	18	20	22	25	25	25	26	26	26			21%
未設定・その他	—	46	50	51	51	51	52	52	53	55	57			
合計		404	427	443	471	493	505	512	523	534	540			

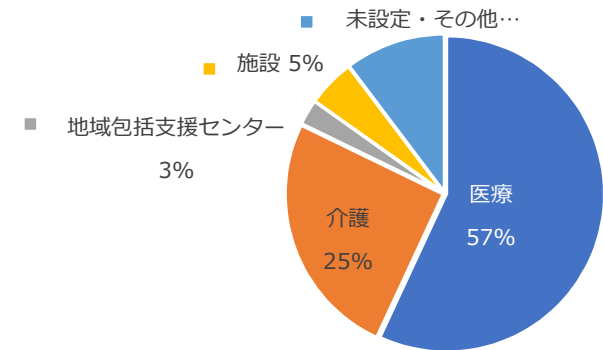
登録者数および利用状況

利用状況	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
登録ユーザー数（人）	815	888	917	957	1,011	1,042	1,063	1,079	1,096	1,113		
ログイン数（人）	389	473	473	500	511	528	543	525	521	546		
利用率（%）	47.7	53.3	51.6	52.2	50.5	50.7	51.1	48.7	47.5	49.1		

MCS利用状況



施設種別登録割合



多職種連携とメディカルケアステーションの活用（案）

【STEP1】
多（他）職種を知るきっかけづくり

- ・ 同じ地域にはこんな人たちがいるんだ...
- ・ 他職の人たちはこんなことができるんだ...
- ・ 他職の人たちはこんな風に考えるんだ...

【STEP2】
多職種（個）が継続的につながる仕組みづくり
（個人的に知っている人に相談できる）

- ・ 研修会で関わった人たちのことを具体的に知る事ができた！
- ・ 個人的に連携の相談ができそう...

【STEP3】
ブロック内で相談しあえる場
（プラットフォーム）づくり

- ・ 困った時に相談できる場がある！
- ・ 他職にもっと知ってもらいたいことがある！

多職種連携研修会部会

- ・ 研修会全体の方向性・計画の策定
- ・ 各ブロックの報告に関する検討と承認

報告

承認

①多職種連携研修会世話人会

- ・ 多職種連携研修会の企画・運営

☞ MCSを世話人会の連絡・検討ツールとして活用

②多職種連携研修会の実施

- ・ 他職の存在や考え方を知る
- ・ 他職と顔の見える関係づくり

研修会での意見やアイデアは、各ブロックでの取組みテーマにつなげ、最後は次の世話人会等にフィードバック

③つながる仕組みづくり

- ・ 研修会参加者を中心にブロック単位でMCSグループを作成

☞ 目的意識のある人たちがつながれる

⑤多職種連携研修全体会

- ・ 各ブロックの取組みを全体会で共有

④ブロック内で主体的かつ継続的な取組み

- ・ ③MCSグループを活用し、各職種相互の情報発信や質問・相談の場とする
- ・ “ブロック全体”にとらわれず、ブロック内で多様な小グループが自走
- ・ 既存の自主勉強会も活用
- ・ 多職種連携研修の一環として区からも情報発信および各ブロックの取組みを後方支援

連携に前向きな機運醸成

☞【例】

- ・ 事例検討会やミニ研修会
⇒テーマは②アンケートなどからピックアップ。
- ・ オンライン交流会（ランチミーティング等）
- ・ 各職種によるオンライン相談会
- ・ 施設見学会など

目的

ブロックで課題解決できる連携体制の構築